

継 続 は 力 な り

会長 森 孝晴

アメリカではオバマ新大統領が就任し、大変話題になっています。金融危機の発火点となったアメリカでも大きな変化がおこり、期待が高まっているようですが、日本はどうなるのでしょうか？ 希望あふれる新年というわけにはいきませんでした。わが協会は会員の皆様のご期待にこたえられるのでしょうか？

まだまだ完全に新しい体制が整ったとは言えないのですが、どうやら軌道にのりそうな予感がしています。私はどちらかというと楽天的なので心配はしていません。ただ、やるべきことは先々のことを考えて進めていかねばならないと思っています。後ほど「お知らせ」で詳しく述べられますが、実はすでに様々な動きが起こっており、協会は確実に前進しています。会員の皆さんのこれまで書かれたエッセイを集約した本がついに刊行されます。辻井名誉会長の翻訳書や私との共訳書が再版されます。「ジャック・ロンドンへの旅」も実施されました。新しいエッセイ集も発行されます。

会員数を増やすことはもちろん重要です。協会の経済的基盤や活動費に関わります。今後とも努力していきますが、もっと重要なことは、「継続は力なり」という言葉もあるように、ロンドン文学の普及や研究という協会の活動を持続していくことだと思います。それは今のような文学受難の時代にあっては特に重要なことでしょう。すぐに役に立たないことは軽視される風潮という逆風の中にあって、たとえささやかでも文学、とりわけ現代への示唆に富んだロンドン文学を守り広めていく営みは、若い世代に対する大人の責務であるとも言えるでしょう。

実は去る12月に私は、ロンドンの影響を強く受けて作品を書き日本を代表する動物作家となった椋鳩十の文学を普及しその業績を顕彰する会の会長に選ばれ、就任しました。椋の没後20年以上教え子や愛読者が続けてきた活動を、発展的に引き継いで新たな会を立ち上げたのです。一昨年秋にも私は、ロンドンの知り合いであった薩摩藩英国留學生長沢鼎を顕彰しその縁で国際交流を続けているサンタローザ友好協会の三代目会長に就任しています。こちら創設以来25年以上になり、まさに草の根の地道な努力が続けられています。

我々役員は今後とも地道な努力を精一杯続けてまいります。会員の皆様も、オバマの言葉のように、**Yes, we can!** の精神を持って、それぞれの「責任」—これもオバマの言葉です—を意識しながら、読書会なりエッセイ執筆なり研究なりといった各場面で持てる力を発揮していただくよう、お願いいたします。そのことが必ずやロンドン文学のさらな

る普及につながり、ロンドンへの理解を広げることになると信じます。その先には日本ジャック・ロンドン協会の継続と発展が待っていることは言うまでもありません。ご支援を。

(2009/01/27)